

はじめに、前提として私は英語が得意で国際教養コース（以下「GLAC」とします。）に入ったわけではないということをご留意ください。それでは、そんな私が感じる GLAC を通して得た具体的な体験や、魅力をお伝えしようと思います。まず、どうしてもお伝えしたいことは、GLAC は名前だけを聞くと英語特化クラスだと感じられるかと思います。確かに、英語に関する単位数は他のクラスと比較して多いですし、約半年間の留学も必須ですので英語に強くなる、磨きがかかることは事実ですが、私は GLAC の本当の魅力は「1 人の人間としての成長」にあると感じています。例えば、留学中は常に単独で行動ができる代わりにその行動の全ては自己責任によるものとなります。そうした環境の中での留学は何もしなければ何も得られません。私個人としては留学中「やらない後悔よりやる後悔」ということを常に頭において生活していました。もちろん、取り返しのつかないようなミスは避けるべきですが、それらを除けば多くの失敗は次のチャレンジや成功の土台になるということを学びました。この生活を約半年間続けて、帰国すると自然と自分でも感じられるくらいブレない人間になれたと感じました。また周りからも大人になったと言われる機会が増え、そこからも成長を実感できました。ブレない人間になれたのは留学生活によるものだけでなく、Academic Skills や哲学、Practical English、協働探究ゼミといった学校指定科目の影響も大きかったと思います。そこで、これらの科目について簡単に紹介します。これらの科目は一般の高校生が受ける何かしらの答えがある問いに対するアプローチをインプット形式で学ぶのではなく、答えが 1 つではない、ないし答えがないような問いに対するアプローチを、ディスカッションを通したアウトプット形式で学ぶものです。まとめると、自分の意見を持つこと、そしてそれらを伝えること、もっと重要なのが他人の意見を否定せずに聞くことと言った、この先の社会で生きる上での必要な「考える」といったスキルを実践的に学べます。最後にお伝えしたいのは、GLAC 全体のファミリー感の強さです。GLAC は学年で 1 クラスしか編成されないで、3 年間同じ 33 人（高校 1 年次は留学生がいてくれたので 34 人でした。）で過ごせたので、他のクラスに比べると親密度が高いと思います。また、横の繋がりにとどまらず、協働探究ゼミの授業では 2 学年ないし 3 学年混合して行うので、縦の繋がりがかなり強固となります。まとめると、GLAC では 1 つのファミリーのような環境下で、英語力はもちろん、人間力を鍛えることができます。

茨中に入学して早々、新型コロナウイルスによる登校の制限がかかりました。私の中高 6 年間の学校生活のスタートはそんな感じです。よって、林間学校や水泳大会は中止だったと記憶しています。また、体育祭やクラスマッチも規模縮小で開催され、思い描いていた中学校生活ではありませんでした。しかしながら、楽しかった思い出もたくさんあります。例えば、中学 3 年次の奈良、京都への研修旅行は中学校生活で一番の思い出です。他にも、私は小学校までは吹奏楽部だったのですが、中学校で気づいたら野球部に所属していました。もちろん初心者ということもあり、すべてが順風満帆だったわけではありませんが、その 2 年半で出会い、共にプレーした仲間は今でも最高の友達です。このように、常に新型コロナウイルスと隣り合わせの生活をしていると、あっという間に中学校生活が終わりに近づいてきました。ここで、自分の中ではかなり大きな決断を迫られました。それが、国際教養コース（以下「GLAC」とします。）に入るか否かということです。結果的には入ったのですが、個人的にも家族の中でも相当迷いました。決め手は幾つかあるのですが、大きく 2 つありました。1 つは「自分を変えたい」ということでした。留学を経て GLAC を卒業した今となつては、コミュニケーション力がある程度身につき、外向的になれたと自負しているのですが、入る前は決して内向的な

人が悪いということではありませんが、内向的で人前に立つて話すこともすごく苦手でした。それ故、GLAC で自分を変えたいと思いました。2つ目は、「後悔したくない」ということです。これは今考えれば、留学中も常に意識していたことです。高校3年で卒業する時に「GLAC に入っていればよかったな」と思いたくなかった、ただそれだけです。最後に挙げたいのは約半年間の留学生活です。先にも書かせて頂いた通り、留学を通して自分という人間が大きく変わったと感じています。ただ、特定の出来事や、特定の1人との出会いで変わったというよりは、約半年間で多様な価値観や異文化のモノ、コトに触れたことで、総じて自分が変わったと感じています。

茨中・茨高の大きな魅力は「オプションが豊富なところ」です。例を挙げるなら、国際教養コースや医学コース、長期休業中や平日放課後の希望課外授業、多種多様な部活動等です。もちろん、茨中・茨高の先生方の授業は工夫が凝らされていてとてもおもしろいものですが、それらの授業を受けるだけでは茨中・茨高を活かしきれていないと思います。先生方が教えることに熱心でおもしろい授業をして下さるからこそ、課外授業を積極的に取るべきだと思います。また、部活動も全部が全部週5日や6日活動するものではありません。実際、私は高校で野球部とフォーク部を兼部していました。野球部は週6日の活動です。対して、フォーク部は週1日の活動です。どちらも極端な例かもしれませんが、これらのように活動頻度や運動系、文化系など多種多様な部活動があります。もちろん、兼部も認められているものが多いです。私の事例で言うならば、野球部もフォーク部も高校3年間所属しましたが、野球部では高校3年次に夏の大会でベンチ入りし、フォーク部としても高校3年次の文化祭ステージで4つのバンドを掛け持ち、計10曲を披露させて頂きました。このように、個人の特性を活かして、それらを伸ばして、時にはその特性で人前で輝けることが、オプションが豊富な茨中・茨高の大きな魅力なのではないかと感じます。

大学では高校の時と同様、オプションメニューに果敢に参加したいと考えています。例えば、部活動やサークル、インターンやバイト、ゼミナールや企業との交流会等です。もちろんこれらの多くは、参加しなくても卒業はできるかと思います。私は大学での目標は「卒業すること」ではなく、それを前提とし、先程挙げさせて頂いた課外活動を通して沢山のひとと繋がり、その方々から学び、また一回りも二回りも成長したいです。将来の進路については未だ、この企業この業界に進みたいというのは固まっていないのが正直なところです。しかし、私自身の強みだと考える、人と繋がること、また人と人とを繋げることを活かせる道に進みたいと考えています。